

エクスカーション「山口から宇宙へつながる」

山根弘也（呉市かまがり天体観測館）

The report of the excursion after 27th meeting in Yamaguchi

Hironari Yamane (Kamagari Astronomical Observatory)

Abstract

We report a half-day excursion to two places which concern to Astronomy (the Yamaguchi communicate center and the ground of Niho Meteorite falls) in Yamaguchi city at Aug 20th. The participant in the excursion were about 40-members.

1. 概要

今回のエクスカーションは貸切バスで年会会場（山口県教育会館）から20kmほど離れた山口市仁保地区にある、以下の天文関連の場所2ヵ所を訪ねました。

- ・KDDI山口衛星通信センター（山口32m電波望遠鏡、パラボラ館）
- ・仁保隕石落下地（信行寺）

エクスカーションには約40名の参加者があり、それぞれで現地のスタッフの方や関係者の詳しい説明を聞きながら、見学を行いました。



図1 パラボラ館での説明の様子

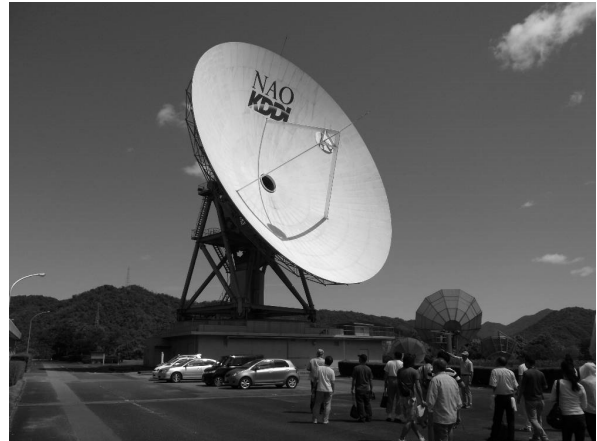


図2 山口32m電波望遠鏡

2. 訪問先の紹介

訪問先について、簡単に紹介します。

(1) KDDI 山口衛星通信センター

同所は1969年(昭和44年)5月に日本の衛星通信の玄関口として開所されました。当地に建てられたのは、インド洋上と太平洋上の両方の衛星との通信が可能であること、電波干渉や自然災害が少ないこと等の立地条件が主な理由です。当センターはインド洋上にある衛星との通信が主な役割でしたが、2007年に太平洋上の衛星との通信を担っていたKDDI 茨木衛星通信センターが閉所されてからは、日本の国際衛星通信の窓口として重要な役割を果たしています。敷地内には大小20基ほどのアンテナが設置されており、その中で最大のもは直径34mのパラボラアンテナです。

(a) KDDI パラボラ館

敷地内にある国際通信に関する展示施設で、1982年（昭和57年）12月に開設されました。館内には通信衛星を宇宙に送るロケット（アリアンロケット）や衛星の模型、光海底ケーブルの実物見本や光海底ケーブルを敷設する船の模型などが展示されている他、国際通信の仕組みなどが分かりやすく説明されています（図1）。

(b) 山口 32m 電波望遠鏡（図2）

2000年までインテルサット衛星通信に使われていたパラボラアンテナが業務を終えた後、2001年に国立天文台に譲渡され、電波望遠鏡として使われているものです。口径32mの電波望遠鏡は日本で4番目の大きさです。現在は国立天文台と山口大学の共同研究協定に基づき、山口大学のグループが主体的に運用し、メーザ天体や活動銀河核などの研究が行われています。

(2) 仁保隕石落下地

仁保隕石は1897年（明治30年）8月8日午後10時30分頃に山口市の仁保地区に2個、山口市の宮野地区に1個が落下したものです（文献[4]）。落下地近くにある信行寺には仁保隕石に関する展示コーナー（図3）があり、当時の様子を記した記録等を見ることができます。また、境内には隕石落下100年を記念した記念碑（図4）が建てられています。



図3 信行寺の展示コーナー



図4 仁保隕石落下の記念碑

3. 謝辞

今回のエクスカージョンを実施するにあたり、多大なご協力をいただいた、KDDI山口衛星通信センターのみなさま、藤澤教授をはじめとする山口大学のみなさま、信行寺のご住職にこの場を借りて感謝申し上げます。

参考文献

- [1] <http://time-space.kddi.com/special/specialreport/20131009/index.html>
- [2] <http://www.kddi.com/parabola/>
- [3] <http://www.astro.sci.yamaguchi-u.ac.jp/>
- [4] <http://db.yamahaku.pref.yamaguchi.lg.jp/script/detail.php?no=625>